

厚木コレクション

厚木キャンパスは広大な敷地を持ち、キャンパス内には様々な環境がそろっています。そのため、様々な種類の昆虫が見られます。

材木置き場



ビオトープ



雑木林



草地



農地



花だん



厚木キャンパスで採集できる昆虫たち



ベニバハナカミキリ

Paranaspia anaspidoides

ハナカミキリの仲間ですが、他のハナカミキリとは異なり、花に来ることは少ないです。5～6月に広葉樹の樹洞内から発生します。



ヒラタクワガタ

Dorcus titanus

クヌギやコナラの生い茂るある程度管理されている雑木林や、河川敷にあるヤナギでも見られます。

成虫は、樹洞や樹木の隙間で越冬し、翌年の5～6月に活動を再開します。



ウバタマムシ

Chalcophora japonica

和名は見た目が老婆に似ていることが由来とされています。漢字で姥玉虫と書きます。成虫はマツ類の枯死木に産卵します。成虫で越冬する個体もあります。



ハチモドキハナアブ

Monoceromyia pleuralis

一見ハチに見えますが、実はハエの仲間です。オオフタオビドロバチなどのハチに擬態していると考えられているため、和名に「ハチモドキ」とつけられました。クヌギ、コナラなどの樹液に集まります。



キンアリスアブ

Microdon auricomus

ハエの仲間で、アリの巣に寄生する好蟻性昆虫の一種です。幼虫は半球のような形状をしており、クロヤマアリの巣内でアリの幼虫や蛹をアリに気付かれないように捕食します。成虫は晩春にクロヤマアリの巣の周辺で見られます。



ナンブジガバチモドキ

Trypoxylon nambui

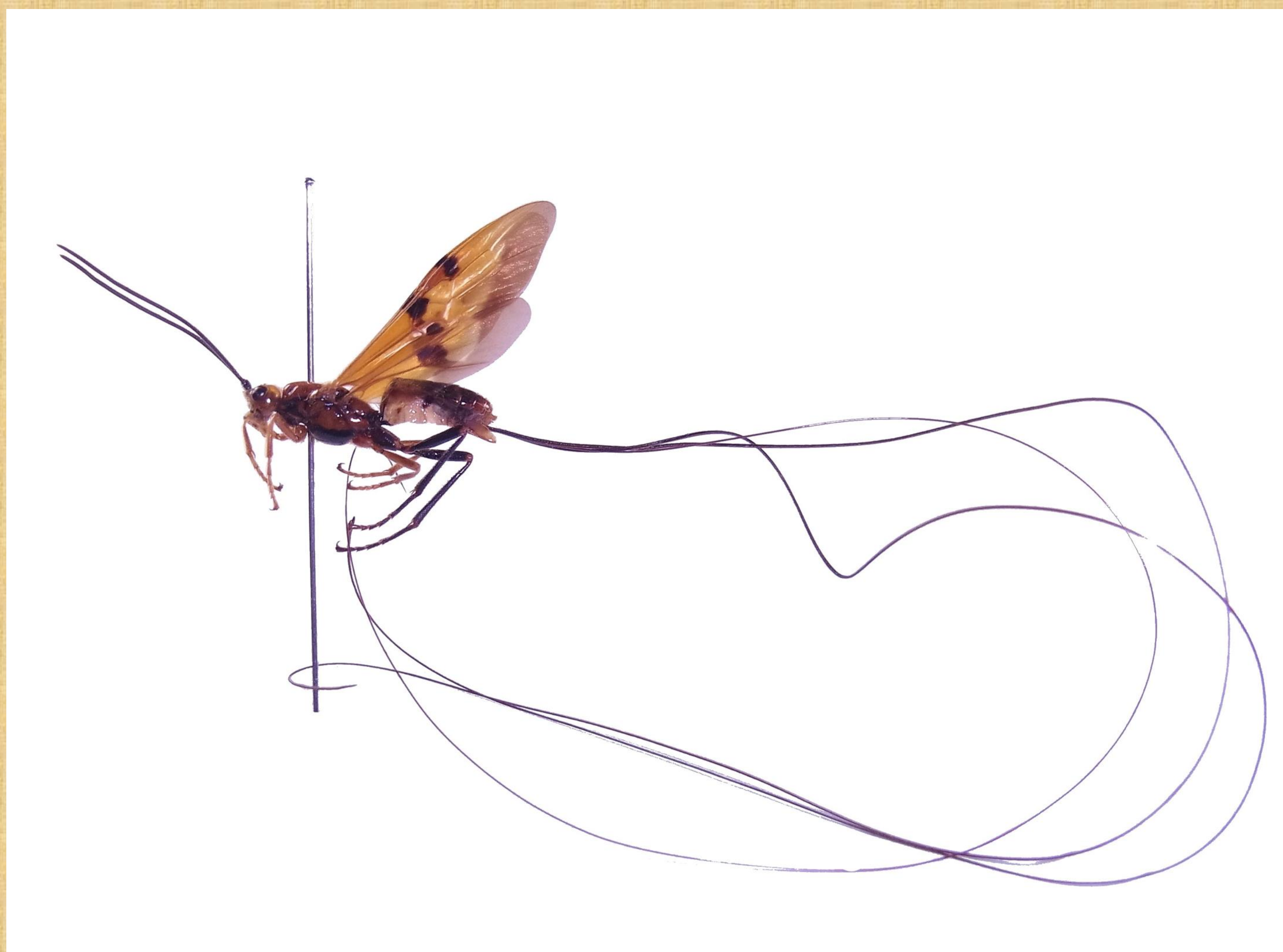
小型の狩りバチで、日本最小級のナンブコツブグモとその近縁種のみを獲物とします。本種の獲物を調べたことが、ナンブコツブグモの発見のきっかけとなったエピソードが有名です。



クロヒラアシキバチ

Tremex apicalis

幼虫が木の内部を食べて育つキバチの仲間で、カエデやサクラなどの衰弱木で春～初夏に見られます。キバチの仲間の多くは産卵時、寄主植物にアミロステリウム菌を注入し、幼虫はこの菌で腐朽した辺材部を摂食します。



ウマノオバチ

Euurobracon yokahamae

寄生バチの仲間で、クリやクヌギなどの木に穿孔するミヤマカミキリの蛹に捕食寄生（最終的に宿主を捕食する寄生）します。非常に長い産卵管をもち、産卵管を含めた体長は世界最長クラスの昆虫です。



アシマダラアカサシガメ

Haematoloecha rubescens

カメムシの仲間で、ヤスデ類を好んで捕食することで知られています。赤い斑紋が目立つ美麗種で、比較的少ない種とされています。

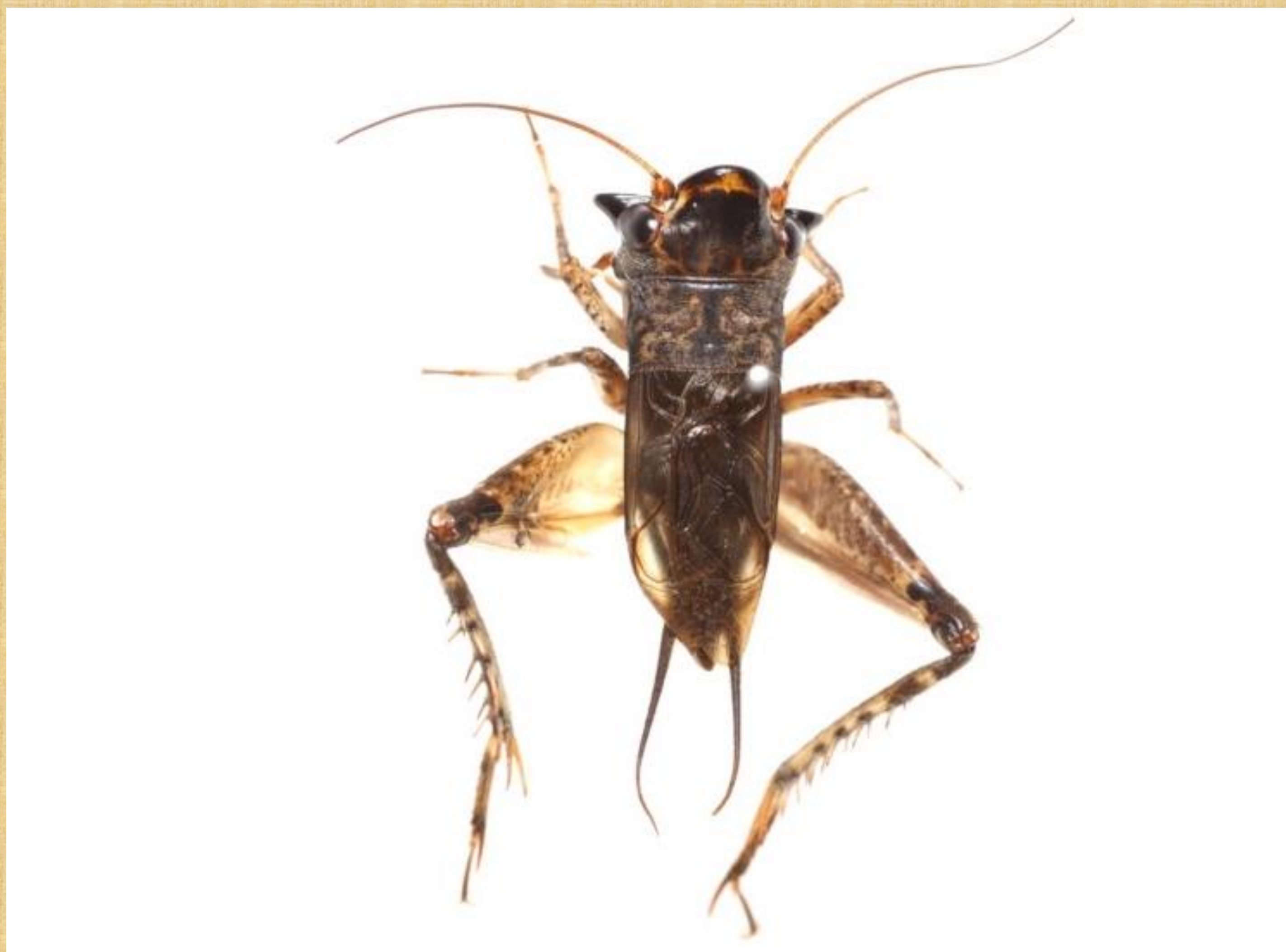


トゲマダラカモドキサシガメ

Empicoris suminoi

カメムシの仲間で、小さく華奢な体型ですが、枯葉や樹幹などで小昆虫などを捕食します。

本種は石川忠教授によって記載された種ですが、室員が厚木キャンパスで採集した個体が神奈川県初記録として2021年に報告されました。



ミツカドコオロギ

Loxoblemmus doenitzi

名前の通り、頭部を前方から見たとき三つの角（カド）があるように見えます。また、ミツカドコオロギの仲間の特徴として、前方や側面から見ると顔が扁平です。

雑食性で、気性の荒いコオロギです。



ショウリョウバッタモドキ

Gonista bicolor

ショウリョウバッタによく似ていますが、比べてみると小型で脚も短いです。地域によっては絶滅危惧種ですが、厚木キャンパスではたくさん見られます。